

# 会員数120人! ライターズ ネットワークとは何か

## 金

丸弘美さんと  
いう人から本

誌発行人・目黒孝二  
に電話がかかってき  
て、ライターズネッ  
トワークの勉強会に  
講師としてきてくれ  
ませんか、という。  
え? ライターズ  
ネットワークって何  
ですか。

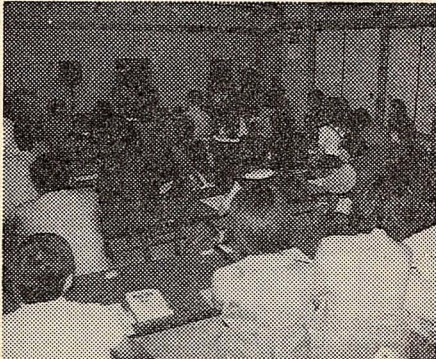
編集者、ライター、  
イラストレーター、  
カメラマンなど出版  
業に携わるクリエイ  
ターの親睦会だとい  
う。

おお、そんな会が  
あったのか。なんで  
も、「より全体の向

上を計り、ひとりでも多くの優れたマスコ  
ミ人を生み出し、より有意義な仕事をする  
べく、交流を主体に現場の仕事を中心にし  
た勉強会を開催している」それで、はたして  
そんな立派な勉強会の講師が目黒に務まる  
のか、はなはだ不安だが、あらら、社長、

引き受けちゃったよ。おいおい、誰か止めな  
くていいのかい。

というわけで、小雨模様の中、地図を頼りに  
赤坂福祉会館に着くと、会場は三十畳ほどの  
畳敷きで、奥にはカラオケセットがどかん  
と置いてある。まるで旅館の宴会場なのであ



実践講座の主会場である赤坂福祉会館。30畳ほどの  
広間に40人を超す人が集まり、熱気ムンムンだ

る。もちろん勉強会だから、歌い出す人はな  
く、全員が講師の到着を座布団に座ってじっ

と待っている。その数、四十人ちょっとで、  
おお、なんとその三分の二以上が女性だ!

代表の金丸弘美さん(といっても男性)に  
よると、ライターズネットワークは「フリー  
ランスのライターや編集者が互いに情報交換

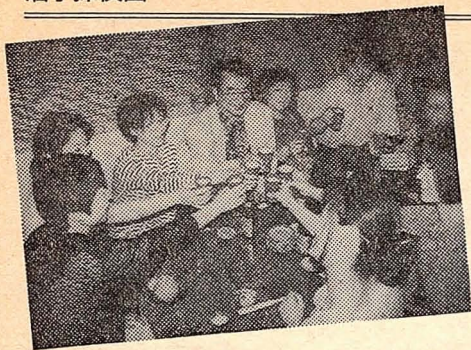
できる場として、またライターを探してい  
る編集者と仕事を売り込みたいライターが  
ダイレクトに出会える場として」93年に発  
足したとのこと。発足当初は六人だったそ  
うだが、現在の会員はなんと百二十人。96  
年6月に大阪、同年11月に福岡、97年6月  
に名古屋、今年1月には長崎と、続々と支  
部も誕生しているという。

96年にはライターズネットワーク大賞と  
いう賞も設定。「身内が身内をほめなきや  
誰がほめる」と創設されたもので、会員の  
仕事から自薦、他薦で候補を選び、役員会  
で大賞を決定するシステムとのこと。本年  
二月に発表された第三回の大賞受賞者は、  
山本陽子(「かぐらざか女日記」ほか)、真  
部昌子(小説「ベジタブル」、金丸弘美  
〔宮武外骨絵葉書コレクション〕の三氏  
で、大塚田村書店/千駄木往来堂書店統括  
店長・安藤哲也氏が会員外として初の特別  
賞を受賞している。おっと、金丸代表が受  
賞しているではないの。

「話し合いで決定したものですから」

と笑うが、自薦他薦のどっちだったので  
しょうか。ちなみに大賞受賞者には名前入  
りの万年筆とクリスタルガラスの盾が贈呈  
されるとのこと。万年筆というのが、ライ





近くの酒場場所を変え、金丸代表を囲んで乾杯。やっぱり酒があった方が盛り上がる

ターらしくて浚いではないか。

本日の勉強会は実践講座と銘打たれた集まりで、毎月一回、ゲストを呼んで、ディスカッション形式で、具体的な話を聞くというものらしい。ゲストは会員のリクエストで決まるそうだが、これまでのゲストは第一回の無明舎出版社社長・あんばいこう氏に始まり、幻冬舎社長・見城徹氏、オタクキング・岡田斗司夫氏、筑摩書房取締役営業部長・菊地明郎氏など多士済々。

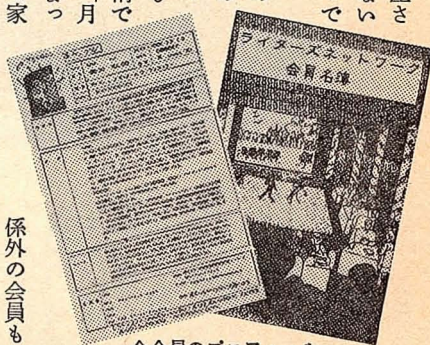
雑誌編集長からテレビプロデューサー、放送作家に書店員までが、女性週刊誌のストープと戦略、出版社によく通る企画書の

書き方と売り込み方、本屋さんが見た売れる本と売れない本といった実践的なテーマで話をしているのである。

一方、本日の当社社長のテーマはといえば、「本の雑誌の作られ方」で、さつきから「納品書の書き方も知らなかった」とか「怠惰でやる気がなかった」とか「月曜日からずつと会社に泊まって土日の競馬が終わるまで家に帰らない」とか、そんな話ばかりしているのである。しばしば笑いがまき起こっているけれど、こんな話でいいのかなあ。

おまけに、そんな話ばかりしているものだから、質疑応答に移ると「ご結婚されているんですか」という質問が飛んで、場内大爆笑。質問したのはイラストレーターで会計担当の竹中恭子さんと、一週間会社に泊まり込んでいる人間が結婚して子供もいるとはとても思えなかったらしい。まあ、気持ちはわかりますけど。

というわけで質疑応答も終わり、実践(?)講座が終了、と思ったら、司会の方が「名刺交換をして下さい」とアナウンスするので、



おっとビックリ。ゲスト中と、というわけではなく参加者同士で名刺交換をしてみると、この勉強会には5000円で販売されているので、聞いた名簿は5000円以上出費は会員以外の人も参加費を払えば出席できるそうなので、本月初めて参加する人も多いらしい。弁護士、コピーライター技術者、占い師、教師など、業界関係外の会員もいるという。これからライタ

ーを目指す人も入会可能なのである。ところで、続く二次会では、原稿料を上げるにはどうしたらいいかとか、某誌の編集者はこんな企画が好みといった話題が飛び交って、おお、こっちの方がよほど実践的だぞ。福岡から毎月参加しているという西日本新聞の原田信行氏も「ここで話をするのが楽しみなんです」というし、やっぱり勉強会より酒の席ですよええ。いや、それとも二次会の方が実践的なのは今日だけなのかなあ。うちの発行人もすっかり酔っ払っちゃって、まだ入稿中なんだから、早く社に戻らないとまずいのには、社長、もう帰りますよ!